授与機関名　順天堂大学

学位記番号　乙第 2453 号

Effect of telling patients their “Spirometric-lung-age” on smoking cessation in Japanese smokers

（禁煙外来における日本人喫煙者に対する “肺年齢”を伝える効果についての検討）

髙木　陽（たかぎ　はるひ）

博士（医学）

論文内容の要旨

喫煙は公衆衛生上、重要な問題である。しかし、現在の禁煙プログラムでは十分な禁煙達成率を得られていない。本研究は、患者が肺年齢を認識することで禁煙達成への影響を評価することを目的としている。

本研究に参加した喫煙患者は 2010 年 12 月から 2011 年 11 月の期間に既存の禁煙プログラム（12 週の間に Visit 1-5 の受診）に参加した喫煙患者が前向きに集められ、肺年齢測定群とコントロール群に割り付けられた。肺年齢測定群は、呼吸機能検査から計測された肺年齢を知り、実年齢との年齢差を知る機会が与えられたが、コントロール群は通常の禁煙プログラムが行われるのみであった。主要評価項目は Visit 5 での禁煙達成率であり、副次評価項目は 1 年後の禁煙継続率であった。

126 名の日本人喫煙者（内男性 88 名）が無作為に肺年齢測定群（n=52）とコントロール群（n=74）に割り付けられた。Visit 5 での禁煙達成率は肺年齢測定群において高い傾向を認めた（59.6% vs. 41.9%; p=0.0700）が、1 年後の禁煙継続率については両群に有意差は認めなかった。多変量ロジスティック回帰解析では、肺年齢測定群とバレニクリン使用群、年齢が visit5 での禁煙達成に寄与する因子であり、1 年後の禁煙継続に寄与する因子は年齢であることが分かった。